

会津旅行記

t. n

昨年9月30日に安永氏の綿密な計画の下、会津・喜多方方面へ第二回一泊研修旅行が催された。参加者は9名でJR大宮駅集合のあと車3台に分乗し、小雨の中東北自動車道を北上、白河ICより最初に大内宿に立ち寄った。

大内宿は会津から出られる五街道の一つで会津から栃木県今市に向かう下野街道筋にある。町おこしとして当時の建物を再現させるべく、茅葺屋根店舗の建物を数十軒、街道の両脇に連ね、中央の砂利敷き道路に沿って脇に綺麗なせせらぎを流している。観光客も結構多かった。周囲は畑や林があり他の建物が無い為、近くの丘から見下ろすと茅葺屋根の連なりの宿場の雰囲気は出ており、時代劇の映画セットを見ている感じだった。旅人はここに漸く辿り着くと安堵して休んだのでしょ。

次は人口僅か約13万人の市内に入った。現在の会津若松市の町並みの骨格を作ったのは伊勢松坂藩主12万石蒲生氏郷で、豊臣秀吉より1590年92万石会津領主として大抜擢で任命された。直ちに城下町建設に取り掛かり7層の天守閣を擁する鶴ヶ城を中心に、内堀・外堀、郭外の町屋、郭内の武家屋敷を配置し今でもその面影を残す通りが碁盤の目状にあり場所を探し易い。城は1868年戊辰戦争により損壊したが、昭和40年に復元した5層の天守閣に登り、一望できるかつての城下町を偲んだ。その後16、17才の若き白虎隊19人自刃の飯盛山に階段を登り志士の墓を参拝し、幕末の争いに最後まで凄惨な戦いの場になったこの会津の歴史を身近に感じた気がした。

飯盛山への入り口



会津 さざえ堂前



さざえ堂はその麓にある1796年建造の国重要文化財木造3階建て六角形仏堂で、上り下りが螺旋状で中心に西国33カ所観音像を配置し、同じところを通らずに参拝ができるというなんとも不思議な当時のからくりが皆びつくり。その後会津若松駅近くの宿泊地に車を置き、雨も上がったので、昔の目抜き通りであった7日町通りに散策に出、明治・大正の蔵造りや漆器店を楽しみながら、旧海産物問屋の明治初期の木造建築を改築した有名な料理屋渋川問屋で郷土料理(にぎり酒ささめゆき、身欠きにしん、棒たら煮、紅鮭の押寿司、こづゆ、会津塩川牛)を高い船底屋根の垂木と黒光りする桁梁が露出している贅沢な空間を有している部屋で堪能した。昔の建物を直しながら再活用して歴史を伝えていく姿勢はいつまでも続けてほしいと思った。

2日目は快晴の下、喜多方へ向かう。新宮にある国重要文化財で1974年修復された熊野神社長床(拝殿)を大鳥居をくぐり、参道を経て参拝。源頼義・義家親子が陸奥征伐の折、東北の和平祈願の為、紀州熊野三社をこの地に1089年勧請した由緒ある建物で、1200年初期の新宮氏支配時には一番権勢を誇りましたが、その後政争の変遷に翻弄され盛衰を重ねた結果、今は約12m×30mの空間に1尺5寸の円柱44本で茅葺の大屋根を支え、四方吹き抜けで整然とした柱列だけの建物は拝殿に入ると圧倒的に荘厳な、神聖な気持ちになります。その奥の階段を上り詰めたところに、これも県重要文化財三社の本殿が祀ってある。残念なのは入口周辺と参道両脇の環境整備がされてなく、奥の長床の素晴らしさに比類する高木の植栽とか手水舎が欲しい。

それからJR喜多方駅前の駐車場に移動し、蔵のまち観光案内図に従い徒歩で情緒溢れる街並みを、まずは狭いが車の通

1号—2

央通りに出て又駅方面に戻るコースを取った。江戸時代には物資の集散地「北方」と称して栄え、この地の大地主甲斐本家が会津北部の燃料の総代理店で新潟港に陸揚げされた満州の石炭や、会津米を首都圏の寿司屋に送る販売で財をなし繁栄をもたらしたそうです。現存する蔵は大小 2,600 棟も点在してその内の一部が酒蔵、味噌蔵、倉庫蔵、みやげ物店、手焼き煎餅店として使われている。入口は店名を染め抜いた長い暖簾が架かっており、蔵の重厚な壁とよく釣り合って写真に撮りたくなる。現在使用中のものは建物が維持されているが、未使用のものが一部朽ちていたりしてそのまま消滅してしまう気配の蔵も散見され心配になった。

昼食は勿論ラーメン。案内によると 47 店もあり、蔵と同様に市内に散在しているので入る店を決めていないと探すだけで大変。会津の渋川問屋の賄人に聞いていた元祖源来軒で醤油ラーメンを食べた。600 円と安く美味しく流石と納得。

午後には資料館「蔵の里」に入館し旧家の蔵・茅葺の家の拝観をした。隣の郷土資料館では、地元 K 写真館による昔の貴重な記録である喜多方市のモノクロ写真が展示されており、当時の様子が覗える。当地出身の清水建設本社設計部 OB の K 氏の父親のものと帰京後確認されその奇縁に驚かされた。

帰路は街並みと違う森林浴を求めて、紅葉にはまだ早い名勝地五色沼に立ち寄り五色ならぬ三色位の沼を見て旅の終わりとした。



大内宿



さざえ堂

鳥居前

